

水害の教訓 防災に生かす

Doはぐを体験する南富良野高の生徒たち



南富良野 中高生、ゲームなどで学ぶ

【南富良野】空知川が

決壊した大規模水害から10年を迎え、南富良野高と南富良野中で「1日防災学校」が開かれた。生徒が講演や避難所運営の体験、高齢者の避難誘導などを通じ災害への理解

を深めた。

10年前の水害の発生に合わせ町が定めた「町防災の日」の8月31日にそれぞれ行った。

南富良野高では生徒約50人が参加。町防災マネジャーの林隆峰さんが、

水害発生時の幾寅地区の空中写真を紹介し、特に下流に真つすぐ流れようとする水の勢いが、湾曲した堤防を決壊させた一因になったと説明した。林さんは「写真を見てただ驚くのではなく、なぜ災害が起きたのかを考えるのが大切」と強調。教訓を防災に生かす重要性を訴え、防災に関するクイズも出題した。

また、生徒たちは北海道版の避難所運営ゲーム「Doはぐ」に挑戦。巨大地震が発生した学校での避難所開設を想定し、避難者の年齢や持病などに配慮した対応を考えた。1年の石田笑暖さん（16）は「災害時にいかに被害を減らせるのかも大切だと感じた」と話した。

南富良野中でも、生徒が5人1組で車いすの高齢者を自宅から避難所に避難誘導したり、防災かまどを使った炊き出しを体験したりした。

（鹿野海人）